

抄 録

結 核 專 門 雜 誌

Zeitschrift für Tuberculose, Bd. 80 Heft 2. 1938

Kurt Klare: Konstitutionserfassung bei Tuberculose.

結核ノ問題一シテ診断學の見地ヨリ深く探究シテ行ケバ行程切實ニ感セラレルモノハ結核ニ異リタル過程ヲ與ヘル所ノ内的或ハ外的ノ力ヲ探究スル問題ナル。即チ體質ヲ知ルコトハ療法ノ明確ナル指針トナリ其適否ヲ左右スルモノテ體質ニ適シタル治療處置ノ爲ノ準備ハ直覺的ニ各體質ニ對シ適當ナル療法ヲ知ル所ノ經驗ト共ニ確實ナル體質診断ナル。Habitus ハ體質ノ外觀的表現トシテ即チ疾病及ビ其經過ノ基礎トシテノ指針トハナラズ。反之生理上機能上ノ體質ガ問題トナル。之レニ關シテハ Potthof ノ業

績 „Konstitution, Rasse und Tuberculose“ ニ貢フ所多シ。

人間ノ機能的體質ヲ確定スルコトハ常ニ困難ニシテ而モ對刺戟反應ハ皮膚粘膜淋巴器官等ガ屬スル所ノ「メセンヒーム」系統ニテ行ハレ其ノ示ス變化及ビ現象ガ機能的體質ニ對スル明確ナル指標トナル。

著者ハ次ニ「體質ト人種」ヲ論ジ民族の特徴ヲ顧慮セズシテ體質學ノ決シテ遂行サレザルコトヲ Pigmentcharakter ヲ以テ力説シ體質ノ表示トシテ尙其外ニ皮膚ノ對刺戟反應狀態、咽頭ノ淋巴組織ノ反應トヲ擧ゲ此ノ外本人及ビ家族ノ病歴、年齢等ヲ參考トシテ多年ノ經驗ヨリ次ノ如キ結論ヲナセリ。(別表)

結核ノ 経過	年齢	Anamnese			Konstitution						
		tbc. Belast.	allg. auffällig.	Angina	眼	毛髮	皮膚	扁桃腺	咽頭	淋巴腺	皮膚 紋割症
良好	思春期 前	無	有	屢々罹患	明	「ブロンズ」	zart rosa	Vergrößert zerklüftet	granuliert	肥大	著明
不良	思春期	有	無	罹患セズ	暗	黒	derb	Klein glatt	nicht	否	弱

(刀根山 杉田抄)

集合「レントゲン」寫眞撮影術及ビ裝置ニ就テ

Manod de Abreu: Verfahren und Apparatur zur kollektiven Röntgenphotographie

著者ハ螢光板上ノ「レントゲン」像ヲ口径:焦點距離ガ1:1.5, 1:1.2 或ハ夫レ以上ノ「レンズ」ヲ以テ寫眞撮影シ、「レントゲン」遠距離撮影ニ比シテ餘リ劣ラザル像ヲ得ルコトコトニ多クノ方向ヨリ寫眞撮影セバ單ニ一方向ヨリハル「レントゲン」撮影ヨリモ有力ナルヲ説キ、ソノ裝置及ビ術式ヲ説明ス。本法ハ2.4×2.4cm²大ノ像ヲ寫スモノ故其ノ費用甚々僅少ニシテ結核豫防上全住民ヲ「レントゲン」検査スル場合「レントゲン」撮影又ハ「レントゲン」透視ニ比シテ設備費、消耗費及ビ有經驗「レントゲン」學者ニ於テ非常ナル節約ヲナシ得ルヲ以テ實施可能ナリ。(刀根山 杉田抄)

G. Sloty: Bronchiektasenentstehung durch primäre Tuberculose mit sekundäre hämatogener, ulzerierender Bronchialaussaat u. positiven Bazillenbefund.

初期結核ニ於ケル氣管枝擴張症ノ發現ニ關シテ決定ヲ與ヘタルハ Ranke ニシテ次デ Redeker, Simon, Bernard, Duken 等之レガ追加ヲ行ヘリ。氣管枝擴張症ノ成立ニ關シ最近ノ學者ハ二ツノ要約ヲ認ム。即チ氣管枝壁ノ損傷ト氣管枝周圍ニ於ケル結締組織ノ萎縮トナル。Ranke ニヨリ唱ヘラレタル如ク初感染群ヲ包藏スル部分ニ氣管枝周圍性淋巴性結核蔓延ヲ來シ氣管枝粘膜炎衝ガ成立ス。此ノ氣管枝周圍炎ハ結締組織性硬變乃至ハ萎縮ニ導クモノナル。血行性結核ニ於テモ亦氣管枝壁ノ傷害ト氣管枝周圍炎性萎縮ガ起ル。然シ血行性結核ト氣管枝擴張症トノ關係ヲ認識スルハ常ニ困難ニシテ第2、3期結核特ニ慢性纖維性結核

ニ於テハ言フ迄モナイ。

著者ハ第1期及第2期結核ノ氣管枝擴張ニ重大ナル意義ヲ有スルカヲ示ス經驗例ヲ記載ス。本例ハ同時ニ外見健康ナル保菌者ノ問題ニ關スル資料ナリ。之レニ關シ著者ハ氣管枝擴張症患者ハ如何ナル例モ結核菌ニ對シ反復検査シ而モ文獻ニヨレバ該患者ニ於テハヨク抗酸性ノ雜菌ガ證明サレルヲ以テ動物實驗ニヨリ結核菌ヲ證明ス可キヲ特ニ今日ノ如ク「レ」線透過視ノ過信サレテ居ル場合ト然リト結論ス。

(刀根山 杉田抄)

喉頭ノ天然色寫眞

H. Effenberger: Kehlkopf-Farbphotographie.

裝置及ビ撮影寫眞ヲ掲ゲ喉頭ノ天然色寫眞撮影法ヲ説明ス。

(刀根山 山中抄)

Tripolis ニ於ケル結核ニ關スル伊國國權黨第六會議 1937年12月17日—20日

6. Kongress der italienischen nationalen faschistischen Vereinigung gegen die Tuberkulose in Tripolis. vom 17—20. Dezember 1937. Berichterstatter: Prof. Dr. J. E. Kayser-Petersen Jena.

1937年12月17日ノ會議

Die Zusammenarbeit der verschiedene Organisation. für die Fürsorge und Bekämpfung der Tuberculose. コノ會議ニハイタリーノ種々ナル團體及ビ協會ノ代表者ガ出席シ、獨逸カラハ H. Brehme-Hamburg ガ „Die Tuberkulosefürsorge bei der Deutschen Reichsbahn“ ニ就テ演説シタ。夫ニ依ルト國鐵ハ8年前鐵道組合ヲ設立シ、運用シテキル所ノ Eisenbahn-Fürsorge ニ其結核對策ヲ委託シタ。鐵道組合ハ國鐵官吏ト勞動者トガ會員トナリ、主トシテ互助ト Fürsorge ヲ行ツタ。國鐵官廳ハ其實蹟ヲ見タ結果、益々此ノ Fürsorge ヲ獎勵スルコト、シ Tuberkulosefürsorge ラモ委ヌル事トナツタ。ソシテ Reichsbahn-Versicherungsanstalt, Reichsbahn-Betriebskrankenkassen, Reichsbahnbeamten-Krankenversorgung 及ビ國鐵組合ノ Bezirksfürsorge 等ガ一致團結之レニ當リ、Bezirksfürsorge ガ實行ノ衝ニ當ル事トシタ。勞動團體ノ指導者ナル鐵道管理局ノ長官ガ其監督ヲナス。然シ Bezirksfürsorge ノ指圖迄ハシナイ。

獨逸國鐵ニハ、26ノ管理局ガアリ、ソレニ各一ツノ Bezirksfürsorge ガアル。患者ノ取扱ヒニ就テハ重要ナル原則ガ定メラレテキル。例ヘバ治療法ハ結核專

門醫ガ要求シタナラバ、其費用ニ就テハ留意スル事ナシニ開始スベク、又療養所カラ歸ツタ患者ニ對スル必要ナル庇護ハ費用ヲカケテモ之ヲ行フベキ事、不治ノ開放性結核ハ費用ノ適期ナ準備ニヨツテ出來ル丈隔離所ニ容レ、保菌者ノ危險ヲ防グ様ニスル事等。其他 Bezirksfürsorge ハ豫防上ニモ活動セリ。即チ從業者子弟テ結核ニオビヤカサレテキル者、又ハ治療ヲ要スル者ハ、夫々適當ノ療養所ニ送ルコトニナツテキル。其爲ノ運賃ハ無料トシ、治療費ヤ準備費ノ補助迄モナス。

1937年12月18日ノ會議

Giuseppe Daddi(Rem: Die tuberkulose Bazillämie.

I. 血液中ノ結核菌ノ證明ハ常ニ可能トハ限ラヌ。實驗結核ノ際ノ感染ノ初期ト末期ト及ビ人體結核ノ血行型ノ時ニハ血液中ニ結核菌ガ屢ク證明サレル。

II. 血液中ノ結核菌證明法トシテ Löwenstein 法ハ唯一無ニテハナイ。Petragnani ノ増菌法ガ用ヒ得ル。

III. 血液ノ結核菌證明ニハ培養法ト接種法トガ満足ナル結果ヲ得ル。接種ノ方ガ陽性率大ナリ。

IV. 結核菌浮游血液ハ屢ク活動性結核ニ際シテ起ルモノナルモ、其證明法ガ特別ノ操作ト特別ノ不變性ヲ以テナサレネバ豫後判定ニハ役立たナイ。

V. 例ヘバ急性「ロイマチス」、早發性痴呆ノ如キ原因不明ノ疾患ニ關シテハ萬一結核菌血症ガ證明サレタ時ハ、反對成績ガ多々アツテモ大イニ意味アリ進ンダ研究ノ標的トナル。ソレハ病原トシテ肉芽性炎症ヲ作ル外、著明ナル「アレルギー」状態ヲ惹起スル處ノ Erreger ノ存在ノ證明トナルカラデアル。

G. Liebermeister ノ追加ハ演者ノ研究ニ贊シ、殊ニ第4表ノ成績ニ對シ萬腔ノ感銘ヲ表シテキル。

Carlo. Vercesi (Pavia): Die Tuberkuloseprophylaxie während der Schwangerschaft.

結核豫防上婦人ノ妊娠ニ就テ考案スベキモノニ次ノ2大群アリ。

第1群ハ結核婦人ガ妊娠シ、其新生兒ニハ結核感染ハナク、其臟器中ニハ疾病素因ハ遺傳シナイモノ。

第2群ハ不健全、營養不良又ハ外ノ障礙ノ存在スル婦人ノ妊娠ニシテ、胎兒ハ發育不全ニシテ出産後ハ先天性ノ劣等ナル標準ヲ得テ後ニハ特ニ結核感染ニ對シ感受性大ナルモノ。

第1群ニ於ケル豫防トシテハ妊娠中ニハ結核ガ増悪スルトハ限ラナイガ、母體結核ノ時ニハ胎兒ハ子宮内生活ノ時ハ微菌性又ハ變態性病原體ノ傳染ハナイガ、

其胎兒ハ榮養不良ト罹病率が大テ感受性カ強イガ、之トテモ一般ノ發育不全、虛弱胎兒ト比シテ特ニ結核ニ感受性カ強イト言フ事ハ無イ。然シ不妊法ヤ流産ハ避ケルベキデアリ、母體ニ對シテハ早期診斷ト嚴重ナル検査ヲナシテ合理的ナ治療「サナトリウム」療法ニヨリテ病氣進行ヲ防ギ、他方出生スル胎兒ニ對シテ防衛ト生活力増強ヲ保證スルコトガ出來ル。

第2群ニ於ケル豫防法ハ、新生兒ノ先天性衰弱ニ對シテハ一般ノ方法ニヨツテ母體健康増進ヲ行フ。

Rocco Jemma (Neapel): Die nachgeburtliche Vorbeugung der Tuberculose.

生後1ケ年間に結核ノ豫防の撲滅ニ目標ヲ置ク事ヲ要請シテキル。即チ生命ノ嚆ニ結核傳染ノ保護ヲ完ウシナケレバナラナイ。

出生後ノ結核傳染ハ種々アルガ、人カラ人ヘノ傳染ハ氣道ニヨルモノヲ最重要トシテキル。ソレニハ家族内及ビ家族外傳染ニ注意スベキアル。其他ノ豫防法トシテハ生物學的ニハ「アレルギー」臨牀的ニハ抵抗力ト抵抗型ノ變換ト呼ブトコロノ細胞の並ニ體液の防禦力ノ増大ヲ目指ス所ノ結核豫防接種が必要ナル。接種法ニ關シテハ接種素カ絶對無害テ最高ノ免疫力ヲ有シテキル事ナル。演者ハ死菌ニ依ル抗結核接種ヲ推奨ス。然シ健康新生兒ヲ傳染環境ヨリ遠ザケル事、結核ニ對スル認識ト國民ノ教養ト、一般衛生ト合理的ナル榮養ト住宅衛生ガ夫以上ニ必要ナル。

1937年12月19日ノ會議

Paols de Paoli und Alberto Ciotola (Tripolis): Geschichte und Entwicklung der Tuberculose in Tri-

politani.

Tripolis 地方ノ地理學的風土的人類學的又ハ歴史的ナ關係ガ結核ノ地方的流行ニ及ボス影響ヲ考察シ、人種、氣候、交通ノ結核ニ對スル意義ヲ結論シタ。「モハメット」人ニハ特殊ノ結核症型ヲ見ル。Tripolis テハ他ノ北アフリカ沿岸ニ於ケルヨリ良好ナル發展型ヲ見ル。交通ノ便利ナ移入者ノ多イ所程感染率多ク病氣ハ重イ。

Adelchi Salatti: Das Röntgenbild des normalen Thorax.

健康肺ノX線像ヲ證明シテキル。

1937年12月20日ノ會議

Edoardo Maragliano (Genua): Die spezifische Therapie bei tuberculöse Erkrankungen.

結核免疫ニハ自然免疫ナク後天的免疫アルノミ、特殊療法ニハ特殊活動免疫ト特殊受動免疫療法トガアル。前者ハ現在世界ノスベテノ國テ使用サレ、其有效ヲ證明セラレ、後者ノ目的ニハ血清ハ最早用ヒラレズ結核性「アミン」カラ作ラレタル有效成分ヲ用フ。適應ハ早期ノ症ニ限ル。特殊複式免疫療法劑トシテ Hämoantitoxin ガアル。

H. Selter ノ追加

「ツベルクルリン」過敏症ヲ desensibilisieren スルコトニヨリ結核免疫ヲ高ム。

Filippo Eredia: Über das Klima Lybiens in Zusammenhang mit dem Klima der südlichen Gegenden Italiens.

(刀根山 山中抄)

Zeitschrift für Tuberculose Bd. 80 Heft 5. 1938

糖尿病ノ肺及ビ特ニ腸結核ニ對スル關係ニ就テ

Über die Beziehungen des Diabetes mellitus zur Lungen und insonderheit zur Darmtuberculose.

著者等ハ最近「家族の遺傳ト腸結核」ニ關スル業績ニ於テ彼等自身ノ研究及ビ Wiener 並ニ Kavee ノ報告ニ基キ糖尿病ヲ有スル結核患者ニテ腸結核ニ冒サルモノハ僅少ナルコトニ留意シ、1932年1月1日ヨリ1937年12月31日ニ至ル期間ニ於テ、ベルリン市 Waldhaus Charlottenberg 結核病院ニ收容セラレタル125名ノ糖尿病結核患者ニ就テ検索ヲ行ヘリ。ソレニヨレバ該患者ハ物質代謝正常ナル全入院結核患者ノ1.7%(125:7181)ナリ。

糖尿病ノベルリン市民ニ於ケル蔓延ハ1.3—2.3%ナリ。又活動性結核ノソレハ高々3%ナルコトヲ知り得テ、著者等ハ今日尙夫々糖尿病患者(嶋性ノモノニ於テ)ハ結核ニ罹ル高度ノ傾向ヲ有スルモノナルコトヲ推論セリ。

家族の遺傳ハ結核ニ對シテハ31.2%、物質代謝病ニ對シテハ21.6%ナルコトヲ明カニセリ。

著者等ノ検索セル125名ノ内37名ハ今尙生存シ(29.6%)、77名ハ確實ニ死亡セルモノナリ(61.6%)。之ニ對シ36例ノ解剖記録(50.8%)ヲ作成シ得タリ。

概シテ糖尿病ハソノ全患者ノ1/5ニ於テ結核ニ2—3年先ジテ發病セリ。是等患者ニ就テ著者等ハ兩疾患ノ

合併ハ、ソノ頻度ヨリセバ、特ニ高齢ノ年代ニ於ケル疾病ニシテ、内部の本質ニ從ヘバ、結核ハ糖尿病ニ後續スルモノナルコトヲ知り得タリ。兩疾患ノ内ニテ活潑ニ續發セル、而モソノ疾病期間ガ非常ニ短キモノハ最初結核ニ罹レル患者ナリ。

著者等ハソノ患者ノ物質代謝障礙者ノ體質的觀察法ニ於テ、

1. 瘦削性、消耗性、年少性、多性嶋性糖尿病
2. 肥胖性、高壓性、多クハ多腺性障礙糖尿病
3. 高齢糖尿病

等ヲ區別シ、ソノ物質代謝障礙ニ於ケル特異性及ビ結核末期ヲ明カニセリ。

輕症ノ糖尿病患者ハ餘リ結核ニ罹ル傾向ナキモ、不合理ニ處置セラレタルモノハ、最初ヨリ中症又ハ重症ナル糖尿病患者ト同様結核ニ罹リ易シ。一度結核ガ體內ニ棲息セバ、物質代謝障礙ノ全程度ニ對シ、全結核ノ發展可能性ハ明カナリ。結核末期ハ患者ノ生命ヲ決定ス。

蔓延經路ニ關シテ言ヘバ、患者ノ $\frac{2}{3}$ — $\frac{4}{5}$ ガ局所性結核デアリ、ソノ殘餘ガ全身結核ナリ。

血行性結核ハ物質代謝正常ナル結核患者ニ對シ著シク少數ナリ、略ク $\frac{2}{3}$ ハ多少滲出性結核ナリ。著者等ハ文獻ニ於テ糖尿病結核トシテ記載セラレタル病型ヲ臨牀上又ハ X 線上ニ於テ特有ナル病型トシテ確證シ得ザリキ。年齡ノ影響ハ糖尿病結核末期ニ於テハ普通ノ意味ニ於ケル決定的確實ナル作用ヲ及ボスモノニ非ズ。概シテ多量ナル喀痰中ニ於テハ豊富ニ結核菌ヲ發見シ得ル。

著者等ハ以前ニ行ハレタル業績ノ確證ニ於テ、ヤハリ今日ニ於テモ 46 例ノ解剖記錄ニ於テ、腸結核ハ糖尿

病結核ニ於ケルヨリモ數量的ニ、而モ程度ニ於テ正シク非常ニ劣勢ナルコトヲ知レリ。

同様ナルコトガ疾病ノ臨牀の所見ニ於ケル身體的ナル所訴ニ對シテモ該當スルモノナリ。是等ノ事實ノ説明ニ對シ、因果的ニ次ノ事ガ發見シ得ラル。即チ腸結核ニ對シテ問題トナレルハ血行性結核ニ非ズ。而モ「インズリン」ノ影響ニモ非ザルモノナリ。

恐ラク結核ノ滲出性發展過程、尙更ニ糖尿病物質代謝障礙、然レ乍ラ(最後ニ體外的契機トシテ)、食物ノ「ビタミン」含有量モ亦著明ナル役割ヲ演ズルモノナラン。(刀根山 岡村抄)

肺結核ニ於ケル牛型菌感染ノ意義並ニソノ培養可能性ニ就テ

Maria Nüss: Beitrag zur Frage der Bedeutung der bovinen Infektion bei Lungentuberculose und der Möglichkeit der Züchtung des bovinen Tuberkelbacillus.

牛型菌感染ニヨル肺結核ハ Robert Koch ガ考ヘタ程ソナニ稀ナモノデハナイ。著者ハ今日迄検査サレテ發表サレテキル文獻上ノ肺結核ノ 2400 例中テ 81 例即 3.36% ガ牛型菌感染ニヨツタモノデアラル見、著者自身ノ検査例 118 例中 2 例即チ 1.7% ガ夫レデアツタ。著者ハ喀痰カラ菌培養ヲヤルノニ Löwenstein, Petraghani 及ビ無「グリセリン」ノ Petraghani ノ 3 種ノ培養基ヲ用ヒタ。牛型菌ハ無「グリセリン」Petraghani 培養基ニハ非常ニヨク殖エタガ「グリセリン」加培養基ニハサホドヨク殖エナカツタ。検査成績ヲ確證スル爲メニ動物實驗ヲヤツテ其ノ 2 例ニ牛型菌ガ存シテキタ事ヲ確カメタ。(刀根山 渡邊抄)

Zeitschrift für Tuberculose, Bd. 80. Heft 6. 1938

化學療法ガ實驗肺結核ニ及ボス影響ノ試驗

K. W. Gotten und H. Reploh: Versuche einer chemotherapeutischen Beeinflussung der experimentellen Lungentuberculose.

實驗動物トシテハ家兎ヲ用ヒ、化學療法ヲ行フ 2—3 月前ニ、先ヅ前處置トシテ家兎ニ弱毒性ノ結核菌 Typ. hum. M. 1373 ヲ $\frac{1}{25}$ mg 宛 3—4 週ノ間隔テ 2 回靜脈注射ヲ行ヒ、約 2 ヶ月後ニ、家兎ニ對シ著明ナ毒性ノアル Typ. hum. Schröder-Baumgarten $\frac{1}{20}$ mg ヲ靜脈注射、又ハ G. Meissner 氏ノ Typ. bov テ人

工感染サセテカラ、化學療法試驗ニ取掛ツテ居ル。本實驗ハ化學製劑ノ發病豫防の效果ヲ試驗シタモノデアル。下記ノ如ク金製劑、金屬色素化合物及珪素、銀製劑等ニ就テ試驗シテ居ル。

金製劑トシテハ、

I. 牛膽酸-金製劑(Nr. T. 226)ヲ用ヒタ試驗。

家兎ヲ 5 群ニ分チテ試驗シタ結果、吸入、靜脈注射、又ハ兩者ヲ併用シタ場合、對照家兎ニ比シ相當有效デアアル。

II. Solganal B. Oleosum (金硫葡萄糖) ヲ用ヒタ試

驗。

家兎ヲ2群ニ分チテ筋肉注射シ、著效ヲ認メテ居ル。

Ⅲ. Lopion (金-allyl-硫尿素安息香酸ノ曹達鹽)ヲ用ヒタ試験。

注射試験ハ有效、吸入試験ハ不定テ、更ニ他日改メテ試験セルト言フ。

Ⅳ. Sanocrysin ヲ用ヒタ試験。

著者等ノ試験ハ無效。然シ Möllgard 氏ノ試験デハ有效デアル。著者等ノハ用ヒタ量が少イカラ、ヨリ大量ヲ用ヒ試験ヲヤリ直スト云フ。

他ノ金屬色素製劑及其他。

I. Curcuma 色素-鐵製劑 (Nr. T. 268) ヲ用ヒタ試験。

吸入試験デハ無效。靜脈注射ノ場合モ大多數ニ無效。

Ⅱ. Curcuma 色素-蒼鉛製劑 (Nr. T. 228) ヲ用ヒタ試験。

吸入、靜脈注射共ニ相當有效デアル。

Ⅲ. Hexamethylentetramin-銻素弗化物 (Nr. 240/XIV) ヲ用ヒタ試験。

吸入又ハ經口投與共ニ無效。

Ⅳ. 銀-Oxybenzyliden-化合物ヲ用ヒタ試験。

此製劑ハ著者等ノ他ノ實驗デハ、赤痢ニ有效テ、且又肺ニ攝取サレルモノデアルガ、本試験デハ幾分好影響アルモノ、様デアルト。 (刀根山 赤染部抄)

吸収性「アテレクトターゼ」ト氣胸

I. Hantschmann: Resorptionsatelektase und Pneumothorax.

人工氣胸術施行前若クハツノ經過中ニ、閉鎖性「アテレクトターゼ」ヲ發見スルコトハ稀ハテナイガ、コノモノ、發生ガハツノ不都合ナル合併症デアルト云フコトニ關シテハ今日マテ餘リ報告ガナイ。

Roth カ推賞セル如ク「アテレクトターゼ」ヲ合併セル肺結核ニ對シテ氣胸ガ好影響アルコトハ、多數例ニ於テ認マルコトガ出來ルガ、コノ場合、吸収性「ア」ノ發見ガ遅レ、或ハ全肺機能ニ對スル「ア」ノ作用ヲ正當ニ認識セザルタメニ、空氣充填後ニ甚シキ呼吸困難ヲ來ス場合アルコトヲ注意シ、自己經驗ノ3例ヲ記載シテキル。即チ何レモX線ニヨリ左下葉、右下葉及ビ右下葉ニ廣汎性「ア」像ノ存在ヲ證明シ、第2(18歳女子)、第3例(12歳女子)ハ夫々充填空氣量ヲ適當ニ調節シテツノ障礙ヲ除去シ得タガ、兩側氣胸實施中ノ第1例(26歳女子)ハ充填空氣ノ排除ニヨリ一過性ノ輕快ヲ

見タガ、再ビ窒息ト血管虚脱ノ下ニ死亡シタト云フ。

(刀根山 河端抄)

活動性氣管枝結核ノ傳染可能性ニ就テ

K. Dietzel: Beitrag zur Frage der Ansteckungsfähigkeit der aktiven Bronchialdrüsentuberkulose.

從來閉鎖性ト認メラレタ小兒結核ニ於テ胃洗滌液カラ菌ヲ發見スル率ノ多イノカ知ラレルニ至ツタ。シカシカ、ル verkapselter Tuberkelbazillenauscheiderノ感染源トシテノ危險性ニ對スル評價ハ未ダ一致セズ。隔離ヲ要スト主張スルモノアリ、他方然ラズト唱フルモノアリ。著者ハ55家族ニ於テ活動性氣管枝腺結核ノ小兒ガ兄弟(初メハ全部「ツベルクリン」反應陰性)ニ對シテ感染源タリ得タカ否ヤヲ調べタ。結核小兒ハ相談所關係ノモノデアツタノデ全部ニハ胃液洗滌液ノ検査ハ行ハレナカツタ。兄弟ハ「ツベルクリン」反應ト「レントゲン」寫眞像ニヨリ感染ノ有無ヲ調べ、感染シタモノニ就テハ結核小兒以外ノ感染源ノ存否ヲ嚴重ニ吟味シタ。ソノ結果次ノヤウナ成績ヲ得タ。55家族中48家族ニ於テハ感染ヲ認メナカツタ。3例ハ確實ニ感染ノアツタコト、思ハレタ。4例ハ不確實デアツタ。氣管枝腺結核ヲ有スル1歳迄ノ小兒ハ常ニ感染ノ可能性アルモノト考ヘラレ、4歳以上ノモノハ實際的ニハ感染ノ可能性ハナイ。感染ヲ受ケル兄弟ノ側カラ見レバ榮養ノ惡イ弱イ兄弟デ、不良ナ住居ニキルモノハ危險大デ、乳兒ハ一般ニ危險ガ少イヤウデアツタ。 (刀根山 農野抄)

過剰肺葉(Lobus azygos)ノ研究

C. Bacanu: Zum Studium des überzähligen Lungenlappens (Lobus azygos)

著者ハ Bukarest ノ Zentralen Tbc. prophylaxe Dispensar ニ於ケル5,020例ノ「レ」線寫眞ヲ調査シテ Lobus azygos ヲ有スルモノ20例ヲ發見シタ(約0.4%ニ當ル)。

18例ハ右側、2例ハ左側デ、14例ニハ葉間膜ノ輕度ノ肥厚ノ外。何等病的所見ヲ認メナイガ、他ノ6例ニハ夫々異常ノアルモノデアツタ。即チ「アテレクトターゼ」ガ1例、Pleuritisガ1例及ビ右上葉ノ浸潤ガ Lobus azygos ニ波及セルモノ等ガアツタ。尙4歳ノ男兒ニテコノ部分ニ限局シテ急性肺炎ノ發生シタ1例ヲ記載シテキル。 (刀根山 河端抄)

Reichel 式塵埃吸引器ニ對スル附設消毒裝置ニ就テ

A. Kairies u. G. Mittag: Über ein desinfizierendes

Zusatzgerät für Staub-Sauger nach C. Reichel.

著者等ハ Reichel 式塵埃吸引器ニ附設スル消毒器ヲ考案シタ。コノモノハ乾燥熱ヲ利用シタモノデ、一般細菌及ビ各種病原菌ノ濾過ト殺菌ニ有效デアルガ、

特ニ結核菌ノ消毒ニ有力ナルコトヲ實驗證明シ、病院、「サナトリウム」、病室並ニ一般家庭ノ清掃用トシテ推賞シテキル。
(刀根山 河端抄)

結核外専門雜誌

鳥型結核菌ハ液體培地上ノ發育ヲ以テ他ノ抗酸性菌ト鑑別シ得ルヤ

Von Dr. Guglielmo Chiti: Gelingt es, Tuberkelbazillen des Typus gallinaceus nach ihrem Wachstum in flüssiger Kultur von anderen Saurefesten sicher zu unterscheiden? (Zbl. f. Bakt. Band 142 Heft 5/6)

Maffucci ハ既ニ鳥型菌ト哺乳動物ノ結核菌トハ、液體培地上ノ發育狀態ニヨリ區別シ得ト言フ。Wolters ト Dehmel モ亦鳥型菌ノ特有ナル發育狀態ニヨリ鑑別ハ可能ナリトナス。即チ人型、牛型共ニ Besredka 培地ニ 2—4 週ニシテ碎ケ易イ沈渣ヲ生ジ液ハ混濁セズ。鳥型菌ハ粘稠性ノ沈澱物ヲ生ズ。之ヲ鏡檢スルト哺乳動物結核菌ハ碎ケ易イ大ナル塊トナリテアリ、鳥型菌ハ個々ニ、又ハ小ナル帶狀物中ニ多數ニアリ視野ニ均等ニ存ス。

著者ハ Besredka 及ビ Lockemann ノ合成培地ヲ用フ。牛型 5 株、人型 7 株、鳥型 8 株及ビ抗酸性菌株ニツキ檢査ヲ行フ。各菌液ハ 1 cc 1—1/10 mgr トシ之ヲ培地上ニ 2 滴ヲ滴下シ培養ス。鳥型菌ハ培地上ニ膜ヲ伴ハズ。哺乳動物結核菌及ビ抗酸性雜菌ハ之ヲ生ズ。培養中鳥型ニシテ粘性性ノ沈渣ヲ生ゼザル事アリ、又菌株ニヨリ人型及ビ牛型ニ似タル發育ヲスルモノモアリ。鳥型ハ培養液ヲ輕度ニ混濁シ振盪スルトキハ混濁著明トナル。其他ノ抗酸性菌ハ培養液ハ清澄ニシテ振盪スルモ均等ナル混濁ヲ示サズ。鏡檢スルトキハ個々ニ又ハ微細ナル帶狀物ニ多數集リテアリ。其他ノ抗酸性菌ハ大小ノ塊トナリテ見ル。然シ兩者ノ間ニハ移行狀態ニアルモノアリテ鏡檢シテ確實ニ之ヲ鑑別スルコトハ困難デアル。鳥型菌培養中其ノ變型ノ R 型ヲ分離ス。之ハ哺乳動物結核菌ニ類似ノ發育ヲ示ス。發育狀態ヨリ觀ル時ハ R 型ハ極僅少ナルモノナルモ、S 型ガ常ニ鳥型ノ特有ナル發育ヲナストモ限ラズ。又牛型ニシテ鳥型ニ近キ發育ヲスルモノモアリ。鳥型菌ノ鑑別ヲナスハ困難ナリトス。
(北研 野中抄)

海狸接種ニヨル結核性病の材料内ノ結核菌含有量判定ニ就テ

Boquet, A.: Détermination, par l'inoculation au cobaye, de la teneur des produits tuberculeux en bacilles de Koch (C. r. Soc. Biol. tome 128. p. 844, 1938.)

著者ハ結核性材料ノ結核菌含有量ヲ決定スルタメニ實驗シテ居ル。即チ實驗方法トシテ、屠殺場ヨリ得ラレタ牛及ビ豚ノ淋巴腺ノ如ク、新鮮且ツ雜菌混入無キ組織デアル時ハ、少量ノ砂ヲ混ジ、乳鉢内ニテ細挫シ、豫メ秤量シ、生理的食鹽水ヲ用ヒ 1 cc 中 1 cgr. ノ浮游液ヲ作り、更ニ之ヲ稀釋シ 1 cc 内ニ 0.1mg 乃至 0.000.001 mg ヲ含ム菌浮游液トナシ、海狸ノ皮下ニ注射スル。

喀痰若シクハ多少古イ組織ノ場合ハ、乳鉢内ニテ細挫シ、4% 苛性曹達ヲ以テ處置シ、前述ノ方法ヲ以テ、稀釋溶液ヲ作り、海狸ノ皮下ニ注射シテ、病變ヲ觀察シ、最小感染量ヲ檢査スル。

實驗ノ結果、牛及ビ豚ノ淋巴腺病變部ノ結核菌含有量ハ人體及ビ海狸ノ肺病竈部ヨリモ遙カニ少イコトガ判ツタ。即チ牛及ビ豚ノ結核性病變部ノ海狸ニ對スル最小感染量ハ 0.1 mg 及ビ 0.001 mg ノ間デアツテ、人體ノ肺病竈部ノソレト殆ド等シイワケデアル。人體ノ肺病竈部ハ多數ノ菌ヲ含有シテ居ルカラ、0.001 mg ヲ海狸ノ皮下ニ注射スルコトニ依ツテ、2 箇月以内ニ全身結核ヲ惹起シ致死セシメル。更ニ之ニヨリ死亡シタ海狸ノ肝臟結節部ヲ海狸ニ接種シタコロ、感染量ハ 0.000.001 mg テアツタ。

結核性患者ノ喀痰ノ場合ニハ、0.001 mg テ常ニ感染シ、結核性患者ノ半数ハ 0.000.01 mg テ感染スルガ 0.000.001 mg テハ、何等結核性變化ヲ起サヌ。即チ喀痰ハ最大限 1 mg 中ニ 500.000 ノ結核菌ヲ含シテキルワケデアル。

以上ノ實驗成績ハ 1910 年 P. Chaussé ガ發表シタ成

績トハ異ナツテキル。(九大細菌 吉田長之抄)

牛型結核菌ニ對スル鶏胎兒ノ脈絡尿膜ノ反應ニ就テ

Bloch, F. et Costil, L.: Réaction de la membrane chorio-allantoïde de l'embryon de poulet aux bacilles tuberculeux bovins. (C. r. Soc. Biol. tome 128. p. 849, 1938.)

著者等ハ既ニ、鶏胎兒ノ脈絡尿膜内ニ人型並ニ鳥型結核菌ヲ接種シテ實驗ヲ行ツテ居ルガ、今回ハ牛型菌ニ就テ實驗ヲナシテ居ル。即チ幼若培養菌 0.1mg ヲ 0.1cc生理的食鹽水中ニ含有セシメ、之ヲ Burnet 氏ニ依リ改良セラレタ、Woodruff 及ビ Goodpasture 氏法ニヨリ、脈絡尿膜ニ接種シタ。肉眼の所見トシテ、3日目ニハ膜ハ浮腫ヲ來シ、肥厚シテ硝子狀トナル。

7日目ニハ肉眼のニ見ユル、帶白色、不透明ノ結節が出來テ來ル。10日目ニハ該膜ハ乾燥シ、種々ノ大キサノ結節トナリ、其ノ大ナルモノハ留針ノ頭大トナル。本變化ハ人型菌ノ場合ト殆ト同ジテアル。

顯微鏡の所見ヲ述ブルト、3日目は於テハ、中胚葉部ノ網狀白血球性浸潤ノ中央部ニ於テ、屢々血管周圍性ノ組織球性結節が出現シ、各結節ハ多數集合セル結核菌ヲ有シテ居ル。5日目はハ、結節數増加シ、其ノ大キサヲ増ス。一方結核菌ハ増殖シ、集合シテ、菌塊ヲ作り、増殖シテ外胚葉ノ表層ニ達ス。5日目ヨリ孵化スル迄ニ結節ハ次第ニ大キクナリ、肉眼ニテ見得ル様ニナル。結核菌ハ更ニ増加シ、集合シテ大部分ハ細胞内ニ含マレ結節ノ中央部ヲ占メル。併シ人型菌ノ場合ニ觀察シタ様ナ變質現象ヲ起スコトハナシ。且ツ人型菌ノ場合ヨリモ牛型菌ノ増殖ハ遙カニ大テアル。

(九大細菌 吉田長之抄)

人型並ニ牛型結核菌ニ對スル各種殺菌劑ノ作用ニ就テ(第2報)無機酸及ビ芳香族酸ノ作用

Hailer, E.: Die Einwirkung keimtötender Stoffe auf Tuberkelbacillen des Typus humanus und bovinus II. Mitteilung. Die Einwirkung von anorganischen Säuren und Säuren der aliphatischen Reihe.

著者ハ第二報ニ於テ、無機酸及ビ芳香族酸ノ結核菌ニ對スル殺菌力ヲ檢シテ居ル。實驗方法ハ第一報ニ於ケルモノト同様デアツテ、人型及ビ牛型ノ各株結核菌ヲ用ヒテ、菌浮游液ヲ作り、之ヲ「シャーレ」ニ納メ、消毒藥ヲ入レ、一定時間作用セシメタ後、苛性曹達ヲ以

テ中和シ、海狗ノ皮下ニ接種シ、6箇月間病變ヲ觀察シタ。

其ノ結果ニ依ルト、結核菌ハ Schweflige Säure 並ニ Rhodanwasserstoffsäure ニ對シテ、選擇的ニ感受性が強く、他ノ無機酸ヨリモ早期ニ殺菌セラレル傾向ヲ有シテキル。Capron, Heptyl, Copryl, Nonylsäure, Monochloressigsäure 等ノ芳香族脂肪酸ニ對シテモ選擇的ニ感受性ヲ有シテキル。但シ Trichloressigsäure ハソレホド殺菌力ヲ呈シナイ。

低級脂肪酸ニ在ツテハ、Ameisensäure が相當強イ殺菌力ヲ示スケレドモ、Essigsäure 及ビ Valeriansäure ノ殺菌力ハ遙カニ劣ル。

無機酸トシテ、Salzsäure 及ビ Schwefelsäure 有機酸トシテ、Oxy-und Ketosäure, Dicarbonsäure, Oxydi-und-tricarbonsäure ハ葡萄狀球菌並ニ「バラチフス」菌ニ對シテ強イ殺菌力ヲ有シテ居ルケレドモ、結核菌ニ對スル殺菌力ハ弱イ。而シテ、飽和脂肪酸ハ不飽和脂肪酸ヨリモ殺菌力が強イモノデアアル。

酸ノ結核菌ニ對スル作用ハ、水素「イオン」ノ溶解度ニ依ルモノデハナク、不解離分子ニヨルモノデアアリ、「リポイド」可溶性デアレバアルホド作用が強イ。

一般ニ鹽酸ニ食鹽ヲ附加スルト、結核菌ニ對スル殺菌力が増大スル。之ト同様ニ「リポイド」可溶性ノ Rhodanwasserstoffsäure ニ Natriumrhodanid ノ溶液ヲ添加スルト、殺菌力ハ更ニ増加スルモノデアアル。

他方 Milchsäure, Essigsäure, Citronensäure ハ結核菌ニ對スル殺菌力が極メテ弱イモノデアアルカラ是等ノ酸ヲ含有スル或ル種飲食物ハ、結核菌ニ對シテハ、他種細菌ニ對スル如キ殺菌作用ヲ有セヌモノデアツテ、更ニ Monochloressigsäure 及ビ高級脂肪酸ノ様な、結核菌ニ對スル殺菌力大ナルモノハ、體表面ニ存在スル結核性病變部ニ對シ、治療的ニ使用シ得ルノデハナシカト考ヘラレル。(九大細菌 吉田長之抄)

人型及ビ牛型結核菌ニ對スル「モグラネズミ」ノ感受性

A. Q. Wells (From the Sir William Dunn School of Pathology, University of Oxford.): The susceptibility of voles to human and bovine strains of tubercle bacilli. (Brit. J. exp. Path., 19. 324, 1938.)

自然狀態ニ於テ「モグラネズミ」(Vole, Microtus agrestis)ニ結核ニ似タ病變が見ラレルコトが注目サレタノハ最近ノコトデアアルガ、コノ「モグラネズミ」ガ

人型及ヒ牛型結核菌ニ對シテ異ツタ感受性ヲ示ス事實カラ、著者ハコノ兩菌型ノ鑑別ニ「モグラネズミ」ヲ應用シヨウト試ミタ。

著者ハ人型及ヒ牛型結核菌各4株ヲ使用シ、ソノDorset 培地上28日乃至32日培養ノ菌ヲ「モグラネズミ」ノ腹腔内ニ注射シテ實驗ヲ行ツタ。

先ヅ、「モグラネズミ」ガ人型及ヒ牛型結核菌ニ對シテ感受性ガアルカ否カラ再檢スルタメニ、菌量1—0.01mgヲ用ヒテ實驗ヲ行ツタ後、多數ノ「モグラネズミ」ヲ使用シテ、菌型ノ差ニ基ク感受性ノ差ヲ確認スルタメニ感染試驗ヲ行ツタ。

1mgカラ0.00001mgマテノ各種菌量ノ人型及ヒ牛型結核菌ヲ「モグラネズミ」ノ腹腔内ニ感染サセタ後、

1ヶ月以上生き延ビタモノダケニ就テ剖檢シタ結果、人型結核菌ヲ感染サセタ43匹ハ、感染菌量1mgノモノガ輕度ノ進行性結核病變ヲ示スニ止リ、ソレヨリモ感染菌量ノ少カッタ動物デハ結核性變化ハ認メラレナカッタ。コレニ反シテ牛型結核菌ヲ感染サセタ37匹デハ、0.00001mgノ菌量デ感染サセタモノマデモ著明ナ進行性結核病變ヲ示シタ。即、「モグラネズミ」ハ牛型菌ニ對シテ人型菌ニ對スルヨリモ100,000倍以上ノ感受性ヲ示スト考ヘラレル。

著者ハ更ニ實驗ヲ重ネテ、人型及ヒ牛型結核菌0.001mg宛ヲ「モグラネズミ」ノ腹腔内ニ注射シテ、1ヶ月後ニ殺シテ剖檢フレバ確實ニ人型菌ト牛型菌トヲ鑑別シ得ル結論トシテキル。(九大細菌 石田抄)

一般學術雜誌

肺出血成因ノ問題ニ就テ

Emma Walter: (Münchr. med. W.sch. Nr. 33, 1938.)
肺出血ノ原因ニ2種アリ、1ハ病的變化ニヨルモノニシテ他ハ機械的影響ナリ。多クノ出血ハ結核病變ノ活動化スル爲ニ起ルモノナレドモ肺内ニ殘留セル砲彈破片(granat splitter)ガ肺門部位ニアリテ出血スルモノアリ、又著者ノ最近ニミタル例ハ石灰電ガ肺門ノ近クニ存在シ呼吸運動ニ際シテ牽引ヲアタヘ數回反復シテ肺門近クノ血管ヨリ大出血ヲ繰リ返ヘセリト。

(坂口内科 岩田抄)

骨結核ト外傷

Haberland: (Münch. med. W.schr. Nr. 33, 1938.)
骨損傷部位カラ一次性骨結核ガ發生スルヤ否ヤノ問題ハ今日尙未解決デアル。著者ハ110名ノ外科醫26名ノ病理學者、30名ノ結核専門家、14名ノ法醫學者ニ意見ヲ求メタガ多クノ人ハ骨損傷部位ニ結核ノ發生スル事ハ可能ナルベシト述べ、一部ノ人ハ例外的ニ發生ヲ見ルノミトイヒ、2人ノ病理學者ハ否定シタ。潛在結核ガ外傷ニヨリ活動化スル點ニ關シテハ外科醫ト病理學者ノ間ニ意見ノ相違アリテ前者ハ之ヲ否定スルモ Sauerbruch 等ハ個々ノ例ニツキテ確メル事ヲ必要トシ一般論のニハ述べ難シトイフ。著者ノ動物實驗ニ於テハ骨結核ヲ來セルモノハナイ。外傷ノ際出血有無ニ關シテハ尙研究ヲ要スルモ血液ノ存在ハ結核菌發育ヲ抑制スルトイハル。結核菌血症トノ關係ハ

不明デアル。

外傷部位ニ骨結核ヲ起サズシテ他ノ一定場所ニ結核病竈ヲ生ズル事ガアル。脊椎骨結核ニ認メラル。是等モ潛在性結核ガ活動化シタモノト考ヘラル、事が多イ。

外傷後症狀ヲ呈スル迄ハ4—6週、最長6週デアル。著者ノ考ヘテハ外傷ニヨツテ骨結核ヲ生ジタト思フ例ナク、スベテ潛在性ノ骨結核ガ活動化シタト考ヘラレル例ノミテ Stefko モ亦骨結核ノ80%ニ陳舊骨結核病竈ヲ認メタ。(坂口内科 岩田抄)

ニュールンベルグ隊ニ於ケル最初ノ大規模ナル集團「レントゲン」検査

Hans Holfelder: (Münch. med. W.schr. Nr. 38, 1938.)
感染シテ間モナイ結核患者特ニ無自覺性ナル例ノ發見ガ集團檢診ニ必要ナ事ハ諸家ノ一致シタ意見テ普通ノ「フィルム」デハ多數ノ場合ニハ多額ノ費用ヲ要スル爲ニ普通透視法ガ行ハレルガ之ハ1日—最高200人ノ検査ニ限ラレ、陰影ノ證據ヲ殘シ得ナイシ、強イ「レントゲン」線ヲ用ヒナケレバナラナイ缺點ガアルノデ、螢光板像ヲ小サクシャウトイフ計畫ガ昔カラ企テラレテキタ。本年~~11~~隊ノ會合ニ當リシーメンス會社製ツアイス、イーコン光學機械ニヨリ之ガ實際的ニ最初ノ大々的ナ試ミトシテ施行サレタ。1日2,000人、1時間300人、1分間ニ5—8人ヲ検査シ得タ。「フィルム」ハAgfa J. S. S. 24×24耗ヲ用ヒタ。10,736人

中 91 人(0.9%)=活動性結核ヲ認メタ。1 人撮影ニ要シタ費用ハ 0.5 R.M. ニスギナイ。

(坂口内科 岩田抄)

泌尿器結核ノ化學療法

Josef. Törster: (W. Kl. W. Nr. 31, 1938.)

腎臓結核ノ爲メ 1 側腎摘出後他側ニ發生シタ腎臓結核及膀胱結核ニ對シ、v. Sailer カ用ヒタ Rubrophen ナル藥劑ノ治験例ヲ述ブ。

Rubrophen ハ $C_{22}H_{20}O_6$ (Trimethoxy-dioxy-oxotritan) ナル色素ヲ生體内ニ於テモ生體外ニ於テモ殺菌力ヲ有セズ。内服トシテ用ユルモ狼瘡ナトニハ軟膏トシテ用フルヲヨシトナス。(坂口内科 葛谷抄)

肺結核ノ活動性ノ診斷

H. Poindecker: (W. kl. W. Nr. 32, 1938.)

病變ノ進行及ビ結核ノ中毒症狀ヲ示スモノヲ活動性トナシ理學の所見、「レ」線像ニ於テモ唯一回ノ検査ニテハ診斷ヲ下シ得ザルコト多ク、ソノ他ノ胸痛、壓痛點、病側胸廓ノ筋肉及皮膚血管、反射性緊張異常、呼吸運動異常等ハ他ニ活動性ヲ示ス症候ヲ有スルトキ參考トナス。足ル。喀痰中ノ彈力纖維ハ決定の意味ヲ有スレド結核菌ハシカラズ。但シ逐回菌ノ増加スルトキハ活動性ヲ示ス。喀血モ亦必ズシモ活動性ヲシメスモノニアラズ。體温上昇ヲ伴フモノハ活動性ナリ。呼吸促進モ亦活動性ノ標準トナラズ。體温及心臟狀態ニ比シ脈搏多キハ中毒症狀ナリ。次ニ繼續性ノ微熱ニハ陰蔽サレタル活動性結核ヲ考フル事ガ誤リ少ク體温計ノ檢定モ肝要ナリ。

外界ノ影響又ハ神經性ニヨラザル盜汗ハ活動性症候ナリ。體重ハ判斷ノ標準トナスニ足ラズ。

活動性ノ不明ナルトキ「ツベルクリン」反應ノ強陽性ナルハ不活動性ナラザルヲ示ス。コノ際病竈變化、一般狀態ヲ參考トスベシ。

活動性ヲ診斷スル爲メ「アレルギー」試験ハ種々アレド追試者ノ意見ハ一致セズ。體液性免疫價ノ測定モ實用ノ域ニ達セズ。流血中ノ結核菌ノ證明モ問題トナラズ。

赤血球沈降速度ハ最モヨキ最モ明瞭ナ判斷ヲ與フルモ滲出モ破壊モナキトキハ活動性ニテモ正常値ヲシメス。ウイス氏ノ Urochromogen 試験ハ確實ナレド他ノ検査ニヨリ活動性ノ疑ナキ時ニ初メテ陽性トナ

ルニスギズ、又肺以外ニ結核ガ同時ニ存スルトキハ判定一層困難ナリ。

虛脫療法ノ適應決定ノ目的ニ 1 側ノ活動性ヲ決定スルニ活動性ヲ示ス例ニ於テハ體温上昇胸部皮膚反應ガ他側ニ比シ高シトナスハ誤リニテ物理學的及ビ「レ」線診斷ニヨルヲ必要トナシ、「レ」線ニヨリ病竈反應ヲ發セシムルハ診斷上使用シウレドモ危險ナキニアラズ。

活動性ノ判定ニハ種々ノ設備ヲ要シ實地家ニハ活動性如何ノ診斷ヨリモ治療ヲ要スルヤ否ヤノ判斷ガ重要ナラントイフ。(坂口内科 葛谷抄)

體質ト結核

Hans Kutschera Aichbergen: (W. kl. W. Nr. 34, 1938.)

管テ無力性體質ハ結核性體質ト考ヘラレテキタガ精密ナ體格測定其ノ他ノ研究調査ニヨリ、ソノ解剖學的標準ハ正當ナラザル事ガ明カトナツタ。

結核病變ノ成立、經過ニハ第一遺傳質(Das Erbgut)、即先天の素質又ハ抵抗第二病原體即ソノ量、毒力、感染ヘノ暴露等ノ環境ノ影響ガ問題トナル。

Schrempf ノ 2,384 人ノ患者並ニ 7,214 人ノ兒童ニ就イテノ研究ニヨルト初感染ニ於テハ遺傳的負擔ヨリ感染ヘノ暴露ガ重要デ、ソノ後ノ結核ノ發病ノ頻度ハ家族的負擔ノ程度ニ關係シナイト、感染機會ノ影響ヲ除外シ得ル 2,600 人ノ孤兒ニ關スル Peller u. Bettelheim ノ研究ニヨルト遺傳ハ余リ關係ガナイト云ハレル。Diehl u. Verschur ノ雙生兒ニ於ケル研究ニ於テハ一部性ノモノニ同様ノ經過ヲトル結核ガ著シク多ク遺傳的關係ノ重要ナルヲ示スモ種々ノ反對意見モアリ未ダ決定的ナリト云フヲ得ズ。家系の研究ニ於テハ代ヲ重ネルニツレテ結核ノ經過ノ良好トナルヲ知ル。比較の最近結核ニ侵襲サレタ程度ニ於テハ管テノ歐洲ニミタル如ク結核ガ重症ノ經過ヲトル。遺傳的關係ニハ素因ト抵抗増加ノ二方向ガ認めラル、モ感染ヘノ暴露及ビ環境ノ影響ヨリハ結核ノ成立及經過ニ對シ關係ガ薄イ。

故ニ結核ニ於テハ感染ノ防禦、暴露ヲ避ケル事環境ノ改善ガ優生學の方策ヨリ重要テアル。優生學の制限ヲ受クル必要アル如キ患者ハ小兒期ニ死亡スルモノト考ヘ得ベシ。(坂口内科 葛谷抄)